

# 門前町に生きる

— 過去・現在・未来 —

## 第6回 昭和初期の門前旅館

薬師堂の前から新勝寺に向かって一気に下る坂道は、いつのころからか仲町の大坂とも呼ばれるようになり、成田の門前町に独特の印象を与えている。この辺りは鰻自慢の中食屋や土産物屋が軒を連ね、総門前は広場になっているが、およそ半世紀前まで、門前は木造三階建ての旅館や蔵造りの商店などがぎっしりと立ち並んでいた。今では夕方4時になると、門前の店は早々とシャッターを閉めて人通りもまばらになるが、旅館が立ち並んでいた戦前には、外とは障子1枚で仕切られた部屋から明かりが漏れ、人々の談笑や芸者衆の三味線の音があちこちから聞こえていたという。

正月の旅館は湧き立つような忙しさだった。成田の参詣客は講中が大半を占めたが、正月の松の内に限っては、講中の人々が故郷で正月を過ごすため、東京とその周辺からの個人客が多かった。昭和初期には既に京成電鉄が大みそかの終夜運転を始めており、除夜の鐘が聞こえるころには、仲町の坂を人々がひしめき合いながら下ってきた。門前の旅館はどこも大きな門松を立てて、元朝護摩に上がる人々が夜明かしで宴を楽しんでいた。旅館の人々も徹夜で働いた。帳場ではお酒の注文がひっきりなしに入り、子どもたちはお土産の羊羹を包装し、早朝になると番頭と一緒に赤下駄を玄関いっばいに並べた。護摩に上がる大勢の人の履物でお寺が混乱しないように、旅館組合が赤い鼻緒の下駄を作り、門前の宿泊客はほぼ全員がこの下駄をはいて町に出ている。

元旦は元朝護摩に上がる人々の赤下駄の音で始まった。朝まだき、静まり返った門前にカランコロンという音があちこちから響き始め、やがて大きくなりお寺に吸い込まれていく。厳粛な元朝護摩が始まると、門前には静けさが戻り、すっかり明るくなると、新年の祈りを終えた人々がまた下駄の音とともに旅館に戻ってきた。旅館ではその間も大忙しであった。お客さんの布団を上げ、戻ってきた人たちの食事の準備をする。佐野屋で育った人(大正生まれ)の話によると、布団上げは男の子の出番だった。女中さんたちは5段も6段も重ねたお膳を持って、胸



大正中期の門前旅館街の様子(現在の総門前辺り)。右手前から小川屋、阿波屋、佐野屋、魚田丸の旅館(久保田滋子さん提供)

を突くような急な階段を駆け上がっていった。若松旅館で育った女性(大正生まれ)は、そのたくましい姿が今でも目に焼き付いていると語る。魚田丸旅館では泊まり客の食事が終わると、おかみさんが個人の客室を回って新年の挨拶をした。護摩札は番頭が寺に受け取りに行き、客は大いにチップを弾んだ。それも正月のお小祝いであった。食事を済ませた客は帰途につくが、旅館は昼の電車でやってくる日帰り客の中食の準備に取り掛かる。こうして昼も夜も休みのない日々が節分まで続いていた。

新勝寺周辺の旅館は、講中の興隆とともに数を増し、明治元年(1868年)に52軒、明治18年(1885年)には61軒あったと記録されている。しかし、大正12年(1923年)には33軒にその数を減らしている。明治後期に開通した鉄道が、日帰り参詣を可能にしたためである。昭和10年ごろ、大卒の初任給が60円前後だった当時、団体の泊まりが1円~1円50銭、個人が3円・5円・7円であったが、人件費がほとんど掛からない時代にあって、成田山の門前の旅館はまだまだ大きな経済力を持っていた。旦那衆は能や謡、菊作りなどの趣味に生きて、今に続く町の文化の礎を築いた。しかし、昭和13年の成田山開基一千年祭が旅館街の最後のにぎわいになり、戦後、地方からの団体バスが増えるに連れて、さらに旅館は数を減らし、多くは中食専門の飲食店になっていった。その後国際空港開港という大転換を経て、現代の門前町の風景ができあがってくる。梅屋旅館で育った女性(大正生まれ)は、戦後の中食は慌ただしいばかりだったが、宿泊客が主流だったころはまだ余裕と風情があったと語る。当時を思い返すと、あのカランコロン、ガラガラという下駄の音がよみがえってくると、はるかな昔に思いをはせた。(久保田滋子)

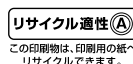
## 編集後記

自転車事故が多発しているといわれています。手軽に利用できる反面、基本的な交通ルールが浸透してはいないようです。さて自分はどうかと、警視庁のウェブサイトで「自転車〇×クイズ」に挑戦しました。わずか9問を全問正解することができませんでした。交通ルールを守らないと、事故に遭うだけでなく、加害者になる可能性が高くなります。自分だけは大丈夫と思わず、交通ルールを守って事故のない社会をつくりましょう。

平成27年1月15日号 No.1283

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。